

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・教 育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 島根大学大学院教育学研究科・島根県教育委員会／鳥取県教育委員会 事業名：NITS・島根大学教職大学院コラボ研修 学校をマネジメントするミドルリーダー教員研修プログラム（2025） 開催日時：①令和7年7月30日～8月1日 9時30分～17時10分【集合実施】 8月4日・8月5日 8時40分～17時10分【遠隔実施】 ②令和7年10月6日・10月24日 8時40分～17時10分【遠隔実施】 ③令和7年12月4日・12月5日 9時30分～17時10分【集合実施】 開催場所：島根大学教育学部付属山陰教員研修センター（島根県松江市大輪町 416-4） 参加人数（総数）と参加者の属性：①20人（学校教員20人、教育委員会〈聴講〉3人） ②20人（学校教員20人） ③22人（学校教員20人、教育委員会〈聴講〉2人）
--	---

目的：

学校において中核的な役割を担うミドルリーダー教員を対象として、若手教員の育成・支援を推進することができる資質・能力の向上をはかる研修を実施する。具体的に、研修では(1)カリキュラムマネジメントにより社会に開かれた教育課程を実現する、(2)若手教員を育成するミドルリーダーとしての資質を OJT と OFFJT を組み合わせて培う、(3)PBL（問題解決学習や課題設定・達成学習などプロジェクト学習）を自ら経験することで問題発見・解決力を高める、の3つの目的を推進するために、島根県・鳥取県教育委員会との連携・協働のもと、両県の教員育成指標に基づき、研修プログラムを実施し、ミドルリーダーとしての教員の資質向上を図る。

内容：※全体発表の内容をテーク起こしするなど、具体的に記載すること。

実施した研修の日程は右の通り（「表 日程表」参照）。①前期日程では「ミドルリーダーの役割」「コミュニティデザインからみた『学校』」「教師の多様性を生かす学校づくり」といった講習を通じて目指すべきリーダー像を多角的に提示した。併せて、課題設定演習を実施し、システム思考を用いて問題の構造分析を行うことで、レベルアップポイントを見極め、問題解決のための具体的アクションプランを設定した。②中期日程では「教育×テクノロジー」や「学校教育における多文化共生」「障害児のインクルージョン」といったテーマを、それぞれの専門家である外部講師が、最先端の教育動向や教育改革を交えつつ、オンラインで研修を実施した。また事前に設定した PBL 課題については、受講者がグループごとに 20 分間の中間発表と質疑応答を行った。受講者は、フィードバックや情報交換を通じて各自の課題を再考した。③後期日程では「リフレクション」や「就学進学保障」をテーマに専門家講師が具体的な事例を交えながら研修を実施したほか、実践報告と自己研修の時間を設け、個人研修（ワークシートへの記入）とグループ研修（研修の学びの共有）を行った。研修終了後の閉講式では、すべての研修を修了した受講生に「島根大学ミドルリーダー教員養成コース」修了証および履修証明書が授与された。

成果：※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載すること。

◆研修終了後のアンケートで「満足」（「満足した」「だいたい満足した」）と回答した割合は 100%であった。
◆研修内容を今後現場で活用する予定と答えた割合は 100%であった。
◆受講者の学びの一例は以下の通りであった。（受講者のワークシートより一部抜粋）
「現在の勤務校でかかえている業務や課題に対して、より深く考える機会となりました。ミドルリーダーとしての役割や責任を自覚し、学んだ内容を今後の学校教育に活かしていけたらと思います。」「現場にいただけではわからない教育課題や実践について、新しいインプットができたと思います。特に PBL の活動は、自分の取組をブラッシュアップする貴重な機会になりました。」「自分自身に向き合い、アクションを起こしたり、試行錯誤したりでき、本当に充実していました。講師の先生方のお話は、自分の既存の概念を広げることにつながりました。」「先生方と協議する時間もたくさんありましたので、異校種の様子を聞いたり、同じ県の主幹の先生から研修等の情報をいただいたり、有意義な時間でした。」「たくさんの知識を得ることができたことも有意義でしたが、それ以上に自己分析ができたことや人脈が広がったことに喜びを感じています。」「魅力ある講師の方からの貴重な講義や理論が刺激的で、新たな視点を持つきっかけとなった。また 20 名が長期にわたって PBL で学びを深めていけたことが、自分のキャリアの中で何よりの財産となったと感じる。」

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

本研修は、教師の力量形成・深化の過程において「自己の『在り方』の発見や問い直しを通じて、実践を発展させる過程」に位置づけるものであった。とくに専門家の講義を受講しつつ、同時に PBL 演習を通じて自らの教育課題を検討するという試みは、「自らの教育実践の特徴や考えの枠組みに気付くこと」を可能にしたと考えられる。また、本事業では9日間にわたる長期研修の中であって、各日の最終コマには、自らの学びを振り返ることを目的とした自己研修の時間を設定した。これによって受講者の学びが「豊かな気付きが醸成される学び」となったと考えられる。この自己研修の時間を中心として、オンライン学習プラットフォーム（Google Classroom）等も活用しながら、受講者間で疑問等を共有し、学びをより豊かにしたことで、「学び合いのコミュニティ」の形成にもつながったと考えられる。

アイデアや工夫したこと： ※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明すること。

初日に研修の趣旨を丁寧に説明することで、本研修での学びの位置づけを明確にした。■ オンライン研修の円滑な実施のため、本研修の初日に受講に必要な技術的知識を習得する時間を設定した。■ 学校の長期休暇等に該当しない日程では受講に伴う移動の負担が発生することから、遠隔(同期型オンライン)による研修を導入した(写真(a))。■ 自己研修の際、グループでの共有時間を設けることで、オンラインでは希薄になりがちな受講者間の交流を促進した。■ 異校種の受講者を意図的にグループ化することで、異なる視点からフィードバックを得られるよう工夫した。■ グループ活動では、ファシリテーター(講師と大学教員)を配置することで討議や活動を円滑に実施した。(写真(b))

表 日程表

①前期日程				②中期日程				③後期日程							
7/30(水)		7/31(木)		8/4(月)		8/5(火)		10/6(月)		10/24(金)		12/4(木)		12/5(金)	
集合				遠隔				遠隔				集合			
1	09:30~10:00 開講式・オリエンテーション(研修の趣旨説明) 「オンライン学習システムの学び」	「学校経営に参画するミドルリーダーの役割」 長崎大学 教育学部 准教授 畑中 大路 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔	「現状の問題整理」 三次市教育委員会 教育部 次長 豊田 庄吾 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 学内教員(ファシリテーター)	1 08:40 ~ 10:20	「コミュニティデザインからみた『学校』～学校と地域の創造性を高めるために～」 北海道安平町教育委員会 子育て・教育総合専門官 岡崎 エミ	「教師のキャリア」 鳥根大学 地域未来協 創本部 准教授 丸山 実子	1 08:40 ~ 10:20	「『障害児』を包摂する教室空間」 常葉大学 健康プロデュース学部 准教授 羽田野 真帆	「教育×テクノロジー」で培った「自ら学ぶ力」～自己調整学習を促進するために～ 東京都立大学 大学教育センター 教授 松田 岳士	1 9:30 ~ 10:20	「教師の成長とリフレクション(省察)～現状を評価し次の課題解決につなぐ～」 広島大学 大学院人間社会科学部 准教授 久保 研二	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)		
2	10:30~12:10 「これからの山陰の教育とミドルリーダーに期待すること」 鳥根教育委員会・鳥取県教育委員会	「学校経営に参画するミドルリーダーの役割」 長崎大学 教育学部 准教授 畑中 大路	「課題の設定」 三次市教育委員会 教育部 次長 豊田 庄吾 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 学内教員(ファシリテーター)	2 10:30 ~ 12:10	「コミュニティデザインからみた『学校』～学校と地域の創造性を高めるために～」 北海道安平町教育委員会 子育て・教育総合専門官 岡崎 エミ	「教師のキャリア」 鳥根大学 地域未来協 創本部 准教授 丸山 実子	2 10:30 ~ 12:10	「『障害児』を包摂する教室空間」 常葉大学 健康プロデュース学部 准教授 羽田野 真帆	「教育×テクノロジー」で培った「自ら学ぶ力」～自己調整学習を促進するために～ 東京都立大学 大学教育センター 教授 松田 岳士	2 10:30 ~ 12:10	「教師の成長とリフレクション(省察)～現状を評価し次の課題解決につなぐ～」 広島大学 大学院人間社会科学部 准教授 久保 研二	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)		
3	13:00~14:40 「働く人と組織が元気になるマネジメントの方法と働き方改革」 株式会社 ソフィアリンク 代表取締役社長 廣田 拓也	「課題設定の意義・方法」 三次市教育委員会 教育部 次長 豊田 庄吾 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 学内教員(ファシリテーター)	「課題の設定」 三次市教育委員会 教育部 次長 豊田 庄吾 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 学内教員(ファシリテーター)	3 13:00 ~ 14:40	「教師の多様性を活かすための学校の改革とリーダーの役割」 次分大 教職大学院 准教授 熊丸 真太郎	「教師の学びの機会」 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔	3 13:00 ~ 14:40	「学校教育における『多文化共生』」 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授 坂口 真康	「PBL中間発表」 鳥根大学教育学部 附属教師教育研究センター 教員(司会) 学内教員(ファシリテーター)	3 13:00 ~ 14:40	「教育政策から考える多様な背景を持った子供たちの就学・進学保障」 鳥根大学 教育学部 特任助教 永島 郁哉	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)		
4	14:50~16:30 「働く人と組織が元気になるマネジメントの方法と働き方改革」 株式会社 ソフィアリンク 代表取締役社長 廣田 拓也	「VISION作り」 三次市教育委員会 教育部 次長 豊田 庄吾 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 学内教員(ファシリテーター)	「課題の設定」 三次市教育委員会 教育部 次長 豊田 庄吾 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 学内教員(ファシリテーター)	4 14:50 ~ 16:30	「教師の多様性を活かすための学校の改革とリーダーの役割」 次分大 教職大学院 准教授 熊丸 真太郎	「教職大学院での学び」 鳥根大学 教職大学院 大学院生/修了生 鳥根大学 教職大学院 教員	4 14:50 ~ 16:30	「学校教育における『多文化共生』」 大阪大学大学院人間科学研究科 准教授 坂口 真康	「PBL中間発表」 鳥根大学教育学部 附属教師教育研究センター 教員(司会) 学内教員(ファシリテーター)	4 14:50 ~ 16:30	「教育政策から考える多様な背景を持った子供たちの就学・進学保障」 鳥根大学 教育学部 特任助教 永島 郁哉	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)	「実践報告と課題の再設定」 鳥根大学 大学教育センター 准教授 中村 恰詞 鳥根大学 教育学部 講師 津多 成輔 学内教員(ファシリテーター)		
5	16:40~17:10 自己研修 (復習・意見交換・予習)	自己研修 (復習・意見交換・予習)	自己研修 (復習・意見交換・予習)	5 16:40 ~ 17:10	自己研修 (復習・意見交換・予習)	自己研修 (復習・意見交換・予習)	5 16:40 ~ 17:10	自己研修 (復習・意見交換・予習)	自己研修 (復習・意見交換・予習)	5 16:40 ~ 17:10	自己研修 (復習・意見交換・予習)	閉講式			



写真(a)



写真(b)